

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103163		
法人名	株式会社ペシエ・ドマーニ		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	長崎市深堀町5丁目216番地2		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成27年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模のグループホームの利点を活かした、家庭的でキメの細かいケアをモットーにしています。併設の住宅型老人ホーム(定員4名)をあわせ、夜間は利用者13名に対して夜勤2名体制をとっており、夜間のケアもさらに行き届いたものを提供しています。日中も基準人員配置以外に人員を配置(日勤、半日勤など)しており、病院受診や、催し物などへの対応を強化しています。その他、ショートステイ利用、ターミナルケアの実践など、利用者及びその家族の方々の要望に、出来るだけ対応するよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地に立地し、一般の住宅を改造して利用しており住宅地に溶け込んでいる。職員は、利用者と沢山会話することで、利用者が活発になるよう支援するなど、理念が活かしていることが確認できる。また、利用者の機能が落ちないようにできるだけ普段の生活を送ってもらい、寝たきりを解消するよう心がけている。更に、職員が利用者をよく見て支援していることで、日中は利用者全員が布パンツで生活するなど改善が進んでいる。事業所内では、利用者ベッドの布団落下を防止する紐や椅子からずれ落ちないように滑り止めを使用するなど工夫が見られ、利用者が快適に生活できるよう支援している。また、午後からは個別に生け花などのレクリエーションを行い、利用者が楽しく時間を過ごせるよう工夫している。職員が楽しく支援することが、利用者の明るい様子に繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム 和が家
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで作り上げた理念は定期ミーティングで毎回唱和し、理念を確認し合い実践に取り組んでいる。	職員は理念を踏まえ、利用者と出来るだけ多く会話をすることで利用者が活発になるよう支援している。また、利用者本人のペースに合わせゆったりとした支援を心がけている。スタッフで作成した理念はミーティングで唱和され職員間でその意味を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の行事にも参加することも増えてきた。地域の人々との交流に努めている。	自治会に入会し地域の情報を収集している。職員は鬼火炊き、公民館祭り、深堀くんち等の行事に参加し地域交流に努めている。住宅地に立地していることもあり毎日のあいさつはもとより、災害の際には隣家の庭に避難できるよう許可してもらうなど地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートリーダーの研修を受け入れた。運営推進会議にも参加された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、報告、話し合いに努めている。その内容でサービス向上につながるものは活かすよう意識している。	会議は規程のメンバーにより、2ヶ月に1度の割合で開催している。会議では、利用者の現状や職員体制などを報告し、質疑応答も行われている。ただし、意見交換はあまり活発に行われておらず、そこでの意見は現在サービス向上にあまり活かされていない。	運営に関する出来るだけ多くの意見を外部から取り込み、事業所の運営に反映させることが望まれる。また、話し合いの内容は、議事録にもやりとりを記載し、記録を残すよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から派遣される介護相談員の受け入れ、活用のほかに、事故報告の的確な処置、定期的報告、監査での対応などは実践しているが、現実的には、その他の行き来、情報交換はさほどない。	行政とは介護制度等での質問や運営推進会議の報告などを通して、互いに情報交換を行っている。また、市から派遣される介護相談員の受け入れや認知症サポーター研修の実施など、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待拘束委員を設け、取り組んでいる。身体拘束を行わないことを日常的にも話し合っており、言葉での制止、態度での抑圧も行わないよう努めている。	事業所内に虐待拘束委員を設け、年に1度の内部研修を通し身体拘束を行わないよう取り組んでいる。また、毎月のミーティングで拘束をしない理念を全員で復唱し、拘束を行わないよう努めている。尚、玄関は防犯上夜間のみ施錠し、昼間はいつでも出られるよう開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも積極的に参加している。虐待に関する理念もスタッフで作り上げ、ミーティング時に唱和し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の一人が利用し、1名が現在手続き中である。 権利擁護の研修にも5名が参加した。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問を尋ねて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満はスタッフが受け入れ介護に活かしている。又、市からの介護相談員を受け入れている。家族等に関しては、意見や不満を気軽に言える関係作りに努めている。また意見箱を玄関に設置している。	利用者や家族が意見を表明できる機会として、事業所内および外部に苦情相談窓口を設置している。また、家族等が気軽に意見を言えるよう、家族にも事業所を家と思ってもらえるよう努めている。家族から「職員の名前が分からないため名札を付けて欲しい」という要望を反映した例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次のミーティングを始め、日々のやりとりの中で直接意見を聞く機会を設けており、出来るだけ考慮、反映している。	管理者は職員からの意見を毎月のミーティングで聞き取り、内容によっては代表に伝えている。また、代表者は必要に応じて、職員と面談を行い要望等を聞き取っている。これまでに職員からの意見で、風呂用の車椅子を購入した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員の勤務状況を把握し、職員の資格取得奨励、賞与査定、給与水準の向上、休日の増加、勤務時間の短縮、職員の増強等、また介護職員処遇改善助成金の適用などで、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われているグループホームの研修会には研修委員をはじめ参加している。又、各関係機関が催す研修、講習などには出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の年2回の懇親会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、困っていること、不安なことを受け止め、信頼してもらえるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況や、これまでの介護の経緯を聞きながら、それを受け止め、安心してもらえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や訪問を受けたときは適切なサービスを一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵やことわざ、日々の会話や作業の中で教えていただく場面作りを大切にしている。 又、その際には感謝の言葉や感動を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支えが最も大切なのでその関係を大事にしている。行事にも参加してもらい、共にすごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や友人が気軽にホームに来ていただけるよう努めている。	友人等が事業所に気軽に来れるよう面会時間に制限を設けていない。また、友人への年賀状を職員が代筆するなどの支援も行っている。馴染みの美容室への同行や同窓会や老人会への出席の支援など、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお世話をやいたり、思いやりの場面も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を絶たない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、本人との対話の中で「思い」を知るよう努めている。	毎日午後には利用者と1対1になる機会があり、会話の中から意向の把握に努めている。発語困難の場合は生活歴や表情、しぐさで本人本位に検討し、支援に活かしている。職員が把握した内容については、ミーティング等で職員同士が共有する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等を記入してもらい、その後も折に触れ、家族や知人本人との話の中から、少しずつ把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で本人が自ら発揮する「できること」も把握するよう努めている。できなかったこともできる方向にもっていくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向もきき、本人へも日常会話の中で、お話をしながら問いかけ、作成している。	ケアチェック表、フェイスシート、介護サマリー及び利用者本人との面談により、得た情報を基に介護計画を作成し、担当者会議にかけ利用者等から同意を得ている。利用者のしたいことを計画に入れるようにしており、利用開始後は1ヶ月後に見直すなど現状に即した計画作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の行動、言動、状態を細かく記入している。又、朝・夕に個々の申し送り表に記入し、口頭でも伝え情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの受け入れ、病院受診、早期退院の支援、重度化した場合のターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	深堀支所(市役所)での公民館祭りに行き、楽しめた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近辺から入所の方は引き続きかかりつけ医に往診してもらっている。他はホームの提携医に往診してもらっている。	近隣の利用者が多く、かかりつけ医を継続しており、往診がある。夜間帯も往診は可能であり、緊急時は電話にて指示を仰いでいる。受診結果は往診記録に記録し、家族には電話にて報告している。眼科や歯科等、家族が付き添った場合は、家族から受診結果の報告を受け、記録し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に入居者の状態や気づきを伝え、相談している。又それに対して看護職から適切なアドバイスや情報ももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関、および近隣の総合病院との連携で、協働を実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医療機関、かかりつけ医、家族、職員などで検討会議を持ち、全員で方針を共有している。医療機関の協力のうへ、ターミナルケアが可能と判断した場合、実践している。	今年1人の利用者の看取りを行っている。その際、重度化した場合における指針、同意書は利用開始時に説明と同意を得ている。家族、かかりつけ医、職員で段階的な話し合いを行いながらケアを行っている。職員に看護師がおり、安心して看取り介護が行える体制作りにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は全員受けている。今年度は2月に予定している。(依頼中)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月消防避難訓練を行なっている。年一回消防署の協力指導で、消防避難訓練を行っている。	毎月1回職員と利用者は消防訓練を行い、夜間想定や消防署の立合いも行っている。火災マニュアルを作成し、近隣へは消防訓練を実施する旨の挨拶回りを行い、知らせている。台風や水害については、避難場所を検討する等の話し合いは行っているが、実際の訓練には至っていない。	台風や水害など自然災害が起きる可能性もある為、火災以外の風水害訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	改善項目にもとりあげ、引き継ぎ時やミーティングで頻回に話し合っており取り組んでいる。	毎月のミーティング時等にプライバシーについて話し合い、職員は人格尊重の大切さを理解している。トイレ誘導時は利用者をトイレの近くまで誘導し、排泄への言葉掛けを行う等、配慮している。排泄時も安全面とプライバシーの両面から検討し、見守りによる支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、本人の意向を組み取っている。スタッフの押し付けはしないよう努め、複数の選択肢から決めてもらう問いかけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝時間など各入居者のその日の体調や状態を把握した上で個別に対応している。過ごす場所も基本的には自由にしてもらっているが、リスクを伴う事もあり、人によって我慢してもらうことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎日の服装を自己決定できない人はスタッフが決めている。 ・本人の要望で毛染めや化粧したい方は支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片づけを利用者と一緒に行っている。昼食はスタッフも一緒に食卓につき楽しく食事できるよう、話題づくりを努めている。	利用者も職員と一緒に台所に立ち、野菜を刻んだり盛り付けを手伝っている。刻み食やミキサー食、代替食の対応も行っている。手作りおやつを提供したり、夏祭りやクリスマス会の時は出前を取ることもある。職員も同じ食卓で食事を行い、皆で会話しながら食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方は計量を行い必要量の摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 義歯は毎晩洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツとパッドですごしてもらっている。 行きたいときに行けるよう支援している。尿意のない方は、時間を見計らって声かけ誘導している。	利用者のほとんどは、布パンツにパッドで過ごしている。夜間帯は居室にポータブルトイレを置き、職員は失敗しても根気強く支援し、トイレ誘導を行っている。時系列で排泄パターンを記録し、本人が尿意を感じたらトイレに行くよう無理な声掛けはせず、現状維持を継続するよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をたくさん取れるよう取り組んでいる。 おやつ時、ヨーグルトやさつま芋、寒天類の手作りを心がけている。下剤等はその人の状態に合わせて使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向を聞き、入浴してもらっている。 無理強いせず、時間をずらしたり声掛けのスタッフを代わり、入浴につなげている。	入浴の準備は毎日行っており、利用者は最低でも週に3回午前中に入浴している。入浴拒否の利用者には時間や職員を変えたり、浴室前まで一緒に行ったあと、入浴を誘うなど職員がさまざまに工夫している。入浴剤などを用い、入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活リズムに合わせて入床、起床の支援をしている。 2名の方はお昼寝の支援もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認に努めている。その都度主治医に報告し、処方も検討してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯物等、その人の出来ることをお願いし、力を発揮していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩やドライブ、買い物等支援している。 ・遠方へは家族にお願いしている。	家族も一緒に弁当持参のドライブ遠足や、地域のお祭り見物に出掛けている。また、スーパーマーケットへの買い物、コーヒーを飲みに出掛けたりと個別に外出支援している。日常的には屋上で洗濯物を干しながら町並みを眺めたり、事業所前の広場で日向ぼっこして気分転換になるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて所持してもらっている。 預かっている方でも買い物時には本人に支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に本人の要望で取り次いだり、電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設という雰囲気をなるべく感じさせないように家庭の延長であるような物品、装飾品を使用している。ホールに家族の了解を得て、行事の写真も貼り、入居者の話題の一つにもなっている。	リビングはテレビを囲んでソファをコの字型に設置しており、昼間は利用者全員が集まりレクリエーションや会話を楽しんでいる。行事の写真や利用者が活けた生け花等も飾ってある。利用者も職員と一緒に洗濯物を畳むなど出来る事を行い、家庭のような空間で過ごせるよう職員が支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2ヶ所に置き、又、テーブル席も利用し、それぞれ談話したり、作業したりとすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時 家具は本人が使用されている物を持ってきてもらう様お願いしている。	居室は職員が毎日清掃し、窓を開け換気を行い臭気がこもらないように支援している。持ち込み制限はなくチェストや小物が飾られ、可動式のベッドは事業所が貸し出している。居室で音楽を流している利用者もあり、個々に居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	隣家との関係で入居者に混乱が生じたが、網戸やカーテンを新たに設置するなどし、引き続きホームの生活が続けられるように工夫している。		